

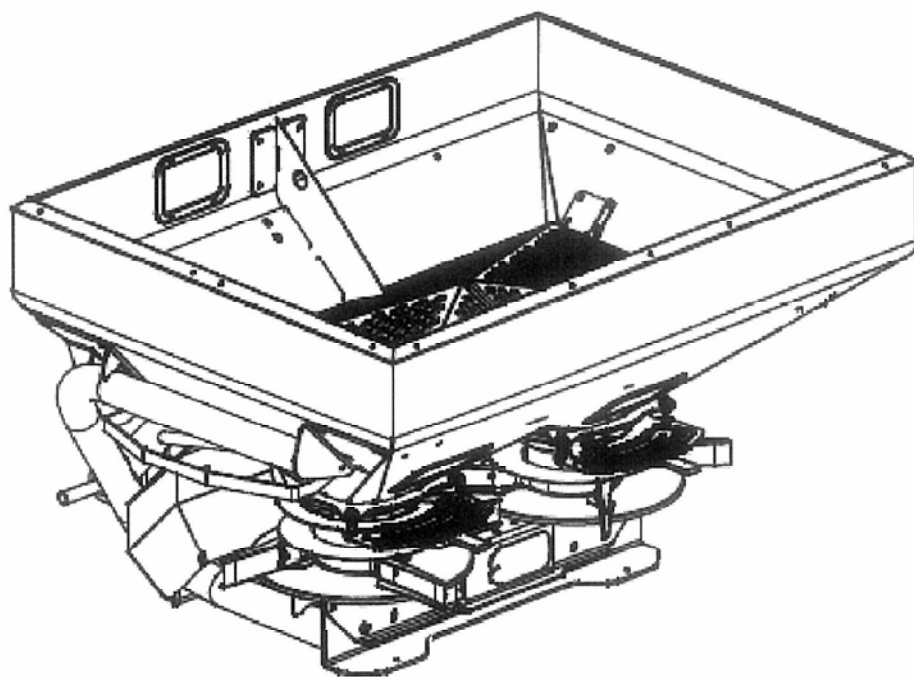


ワイドスプレッダー

ROC シリーズ

取扱説明書

ご使用になる前に必ずお読みください。



松山株式会社

はじめに

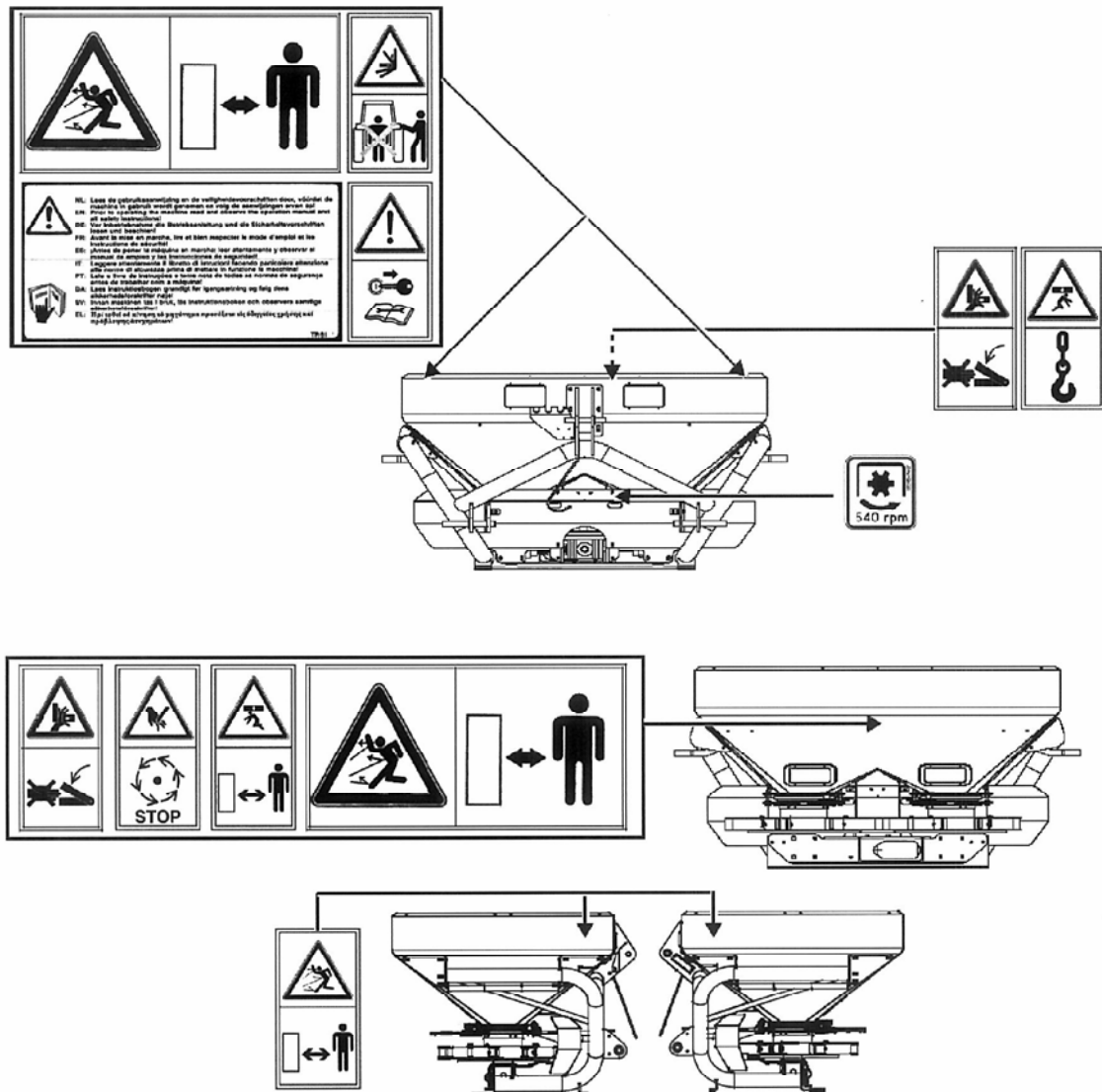
ワイドスプレッダーをトラクターへ装着、使用する前に必ずこの取扱説明書を熟読してください。これにより、本機の正しいセッティングが可能となり、本機のもつ性能を十分に発揮できると共に、安全な作業が行えます。

もし、不明な点がありましたら、購入されたディーラーご担当者か弊社係員までお問い合わせください。

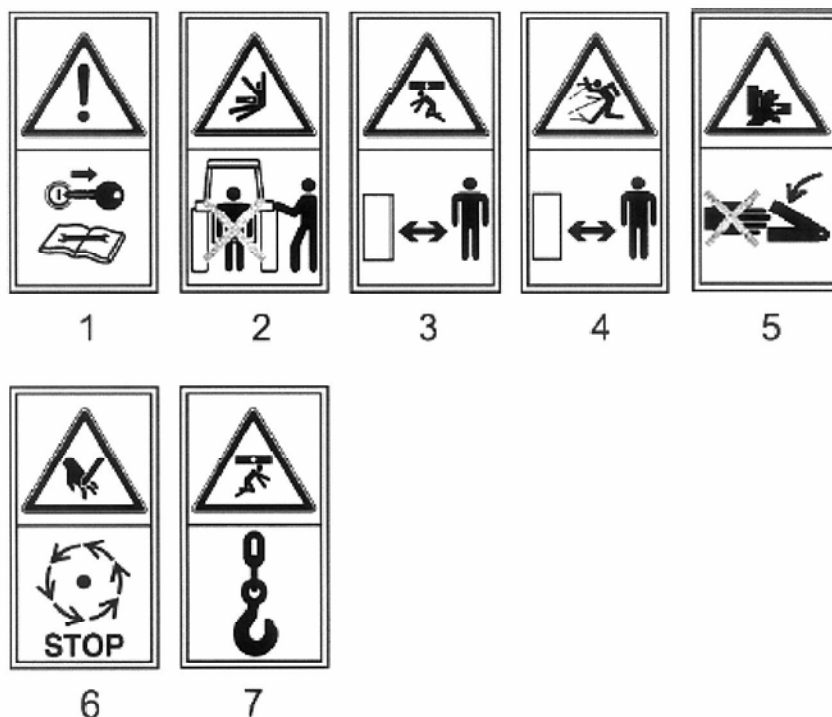
注意：本説明書にある「安全」に関わる注意を無視した場合、重大な事故につながる危険性があります。「安全」作業は全てにおいて優先してください。

注意:安全に関わるステッカーが各部に貼付してあります。

イラスト+日本語補助ステッカーの内容を確認し、安全作業を心がけてください。



警告ラベル



安全表記

1. 機械の調整・点検をする時はトラクターのエンジンを切って キーを抜き取ってください。エンジンが回ったままでの作業はトラクターや機械が急に動き出して大変危険です。
2. 作業機をトラクターに接続するときは機械とトラクターの間の危険地帯に入らないでください。トラクターと機械に挟まれて危険です。
3. トラクターのエンジンを切っても油圧は残っています。残圧などによって上から部品が落ちてこないように注意してください。
4. 機械を正常に使用していても小石や異物が飛んできてことがあります。作業範囲には誰も入り込まないようにしてください。
5. 機械稼働部分に手を近づけないでください。挟まれたり巻き込まれたりして危険です。
6. 機械はすぐには止まりません。回転部分などが完全に停止するまでは機械に近寄らないでください。
7. 機械を吊り上げるときは必ず吊り上げポイントを吊ってください。

技術仕様書

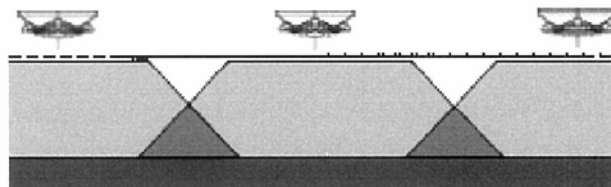
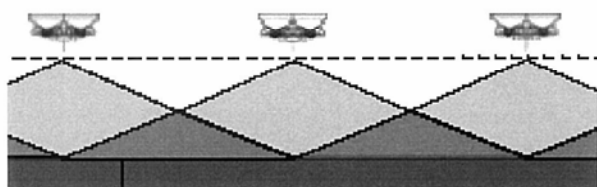
	ROC 700/M	ROC 1400/M
ホッパー容量(ℓ)	700	1400
肥料投入高さ(cm)	96	118
ホッパー幅(cm)	148	170
機械重量(kg)	200	239
最大積載重量(kg)	1400	1400

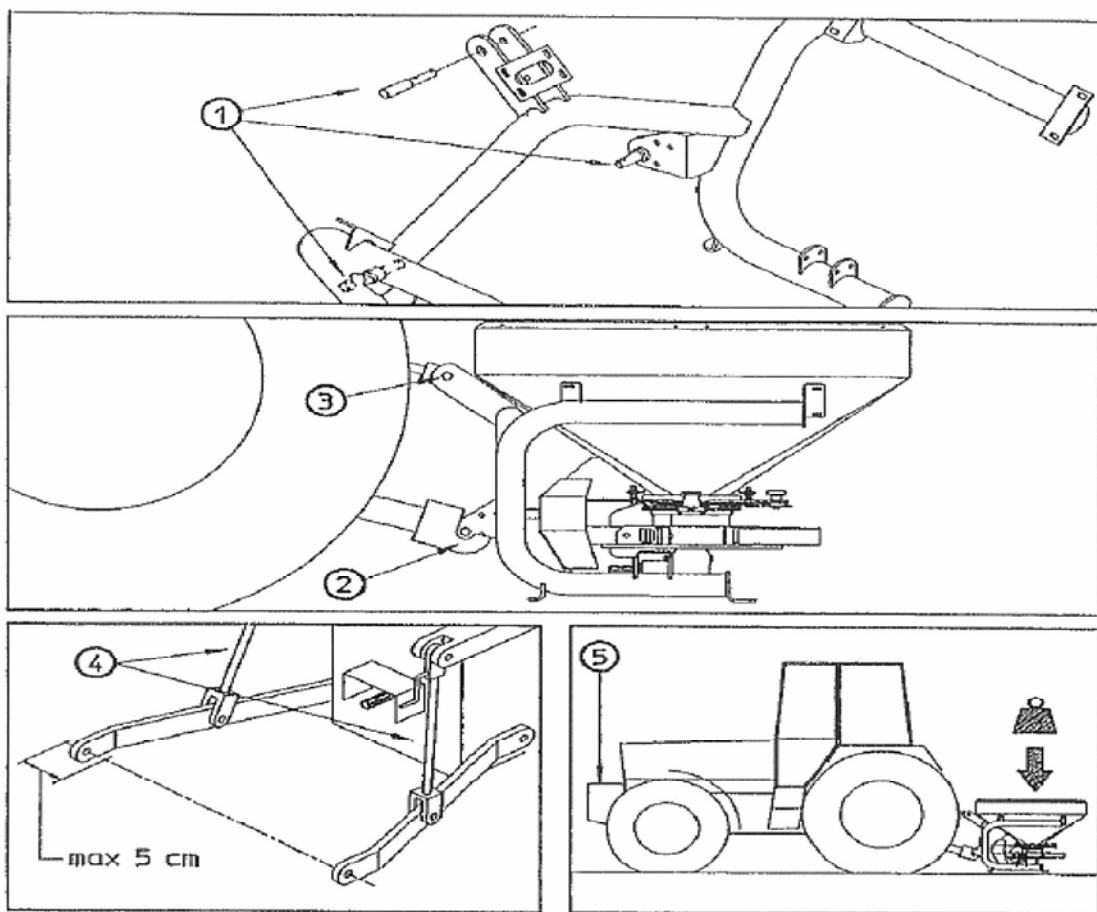
全機種共通仕様書

散布量(kg/min)	10 - 230
リンケージ	Cat. II
PTO 回転数	540
作業巾(m)	9,10,12,15/16,18,(21)*

散布パターン

- 散布幅18mまでは、左右対称の二等辺三角形の散布パターンとなり、往復で全幅を重ね合わせる散布方法です。
- 21m散布が可能な肥料については、別売りキットを使用することにより、台形パターンで両端部のみを重ね合わせし散布します。





作業準備および調整

トラクターへの装着

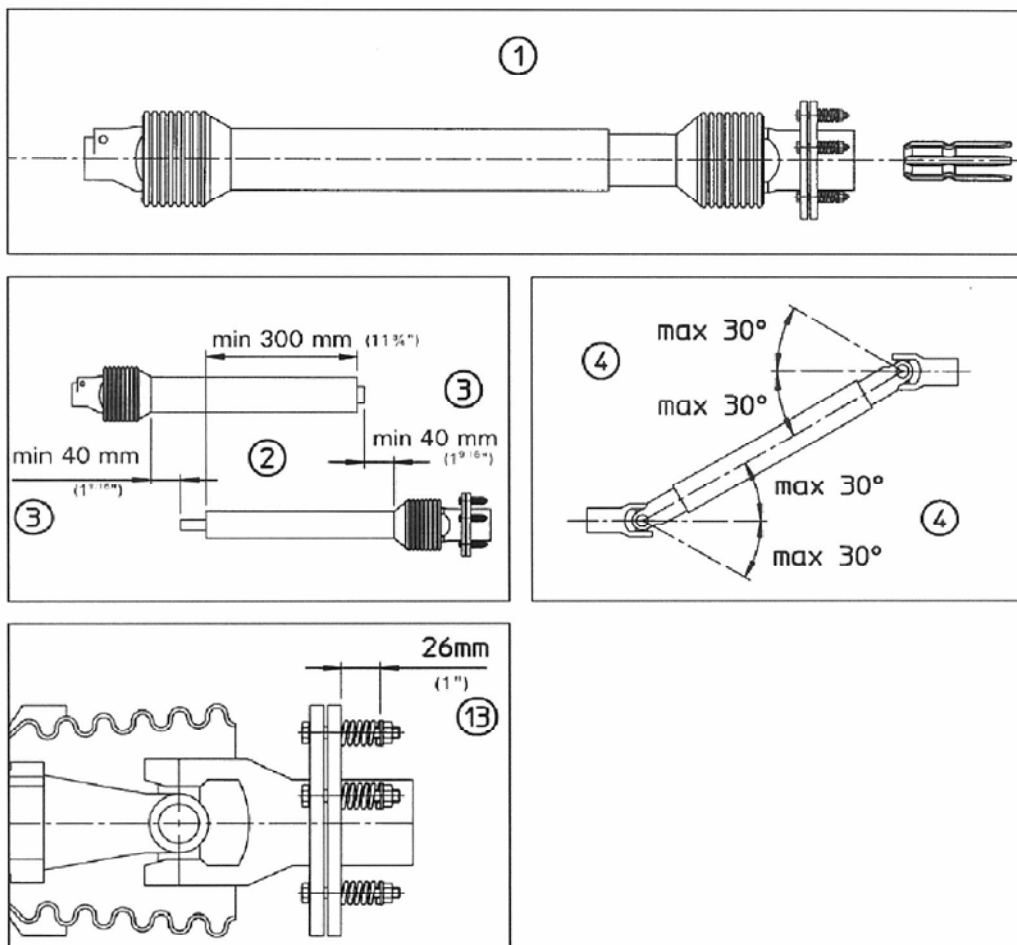
本機はトラクターの 3 点リンケージに直装して使用します。リンケージへの接続は CAT II ピン (①) を使用します。トラクター側のボールを適切なものに交換しておいてください。

- スプレッターをリンケージアーム (②) に接続してください。
- スプレッターにトップリンク (③) を接続してください。

横方向の遊びを制限する為に、スタビライザーロッド (④) やチェーンを使用してください。横方向の遊びは 5cm 未満にしてください。

- スプレッター装着時 PTO シャフトは必ず最後に接続してください。また、機械を外す時 PTO シャフトは必ず最初に外してください。
- 外した PTO シャフトは必ずブラケットに置くようにしてください。

必要なときはトラクターにウェイト (⑤) を装着してください。ホッパー内が満載の時フロントタイヤの接地圧が極度に低下しトラクター操作に支障を与える場合があります。



PTO シャフトの切断

PTO シャフトの長さを決めるためにスプレッダーはトラクターに接続しておいてください。

- スプレッダーの入力軸とトラクターの出力軸が一直線になる位置①にリフトを調整します。PTO シャフト伸縮部分を抜いた状態で入出力軸それぞれにカップリングを装着して横に並べてみます②。スリップクラッチは必ず作業機側に装着してください。
- チューブのオーバーラップが出来るだけ多くなるようにしてください、ただしクリアランスは最低でも 40mm以上、オーバーラップが 300mm以上になるように PTO シャフトを切断してください。

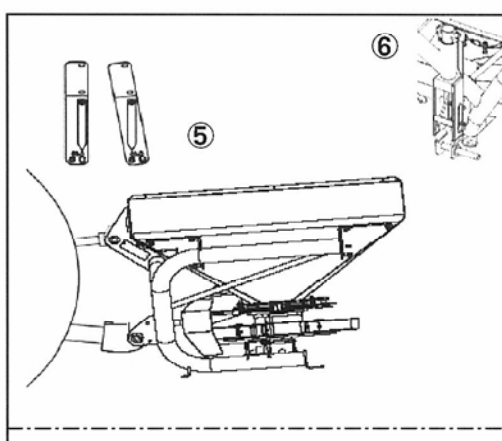
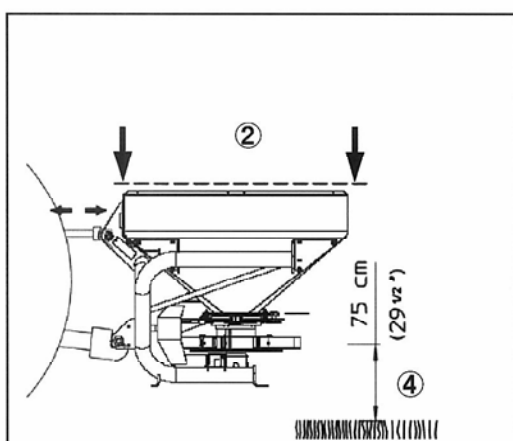
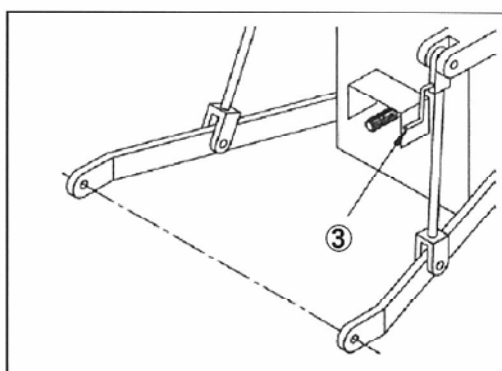
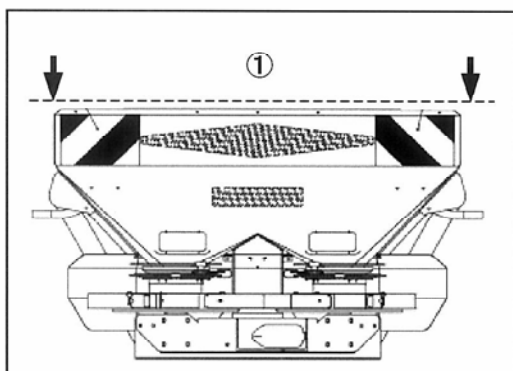
注意： PTO シャフトの屈折角度④は 30° を超えてはいけません。PTO を上下させる時は必ず PTO を止めてください。

スリップクラッチの点検

PTO ブレーキを装着したトラクターで使用する場合、本機を破損から守るためにスリップクラッチが標準装備されています。定期的なスリップクラッチが正しく作動するか確認してください。スリップクラッチが作動するトルクは 400Nm です。トルクレンチなどで点検してください。スリップクラッチのスプリング長は 26mmに設定してください。

注意： PTO シャフトに亀裂などが発生していないことを確認してください。

注意： スリップクラッチの点検をするのにトルクレンチを持っていない場合、最寄りの整備工場に依頼してください。



水平位置の調整

正しい散布パターンを得るためにもスプレッダーは地面に対して水平になるように調整してください。まずは後から見た水平度①を確認し、次に横から見た水平度②を確認します。まずトラクターの空気圧が左右均一になっているか確認してください。

- トラクターのリフトロッドハンドル③で左右ローアリンクの高さを均一にします。
- 散布面④が75cmになるようにローアリンクを調整します。
- トップリンクでホッパーが水平②になるように調整します。
- 肥料満載状態で再度この調整を実施してください。

注意： 21m散布の際はオプションのチルトシリンダー⑥を使用し、散布表を参照して、本体をチルト⑤させます。

注意： 追肥作業時に、トラクターのローアリンクで散布高 75cm が得られない場合、オプションのハイリフトフレーム⑦をご使用ください。

散布準備

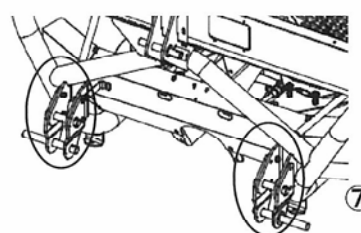
正確な散布設定をするために、下記の情報が必要です。

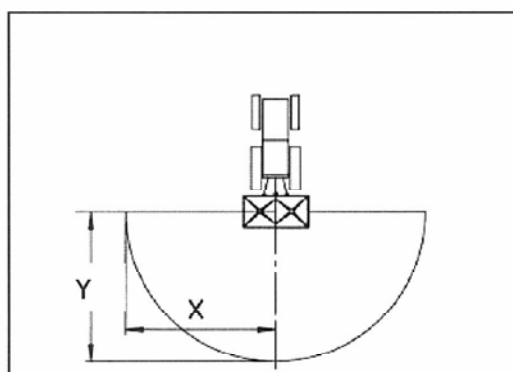
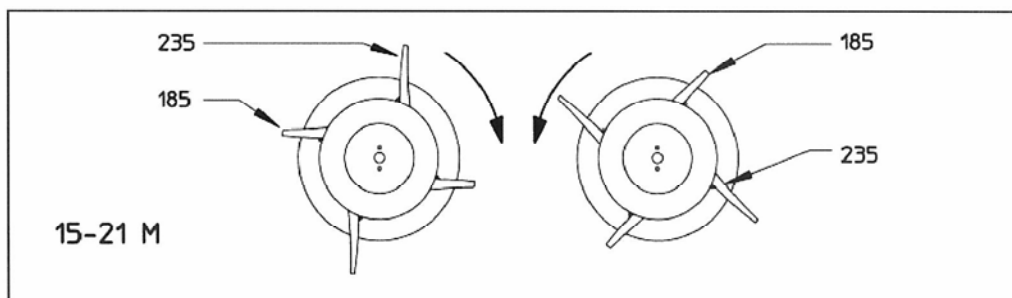
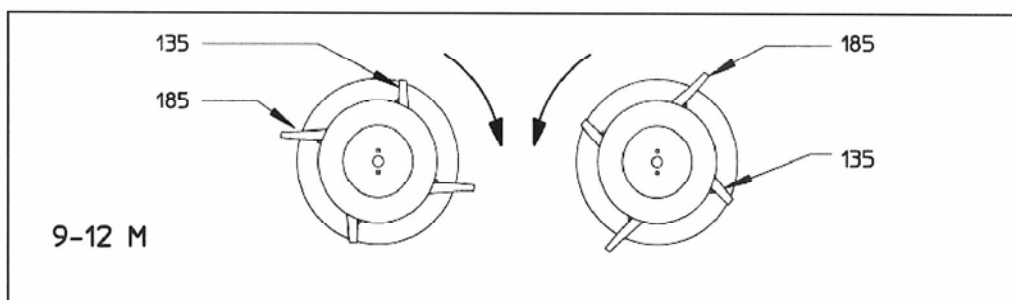
- 適切な散布表の選択
- 希望する散布量
- 作業幅
- 作業速度

上記情報が集められたら散布表を用いて調整を行います。

注意： 散布表で得られた値と実際の作業の値は異なることがあります。常に肥料のサンプリングをして適切な散布表を使用してください。

注意： セッティングが正しいかどうか確認するために、キャリブレーションテストを実施してください。





上図のペーン配置図を参考にしてください。

注意:PTO回転数は必ず540rpmにしてください。

注意:作業幅(X)は左または右側への散布距離と同じだけ後方(Y)にも飛ばされます。

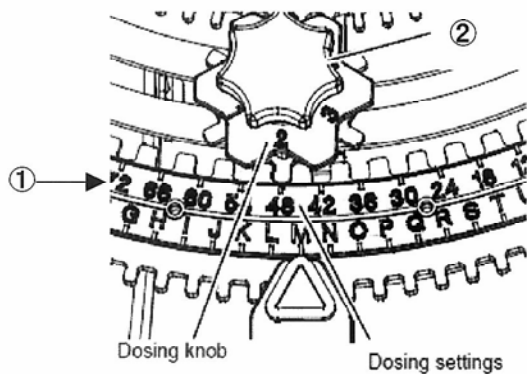
作業幅

スプレッダーの作業幅(散布幅)はスプレディングディスクに取り付けるペーン(羽根)の組み合わせによって決まります。各ディスクには4枚ずつのペーンが取り付けられており、135, 185, 235mm3種類のうち2種類を使用します。

散布幅別のペーン組み合わせは以下の表を参照してください。

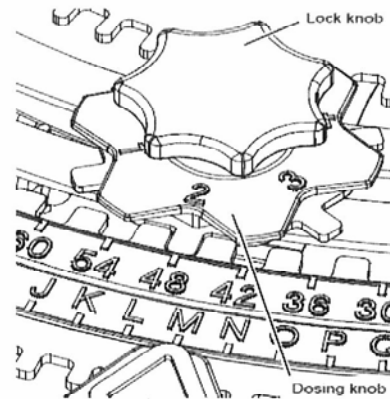
Working width (m)	Vane combination* (mm)
9-12	135-185
15 - 18	185 - 235
20 - 21	See spreading chart

散布量の調整



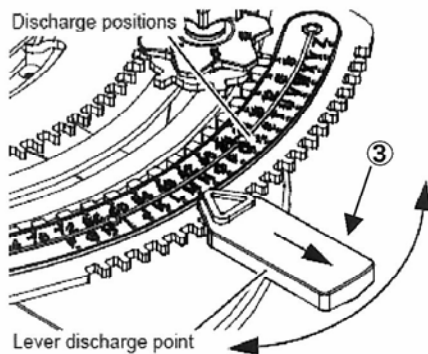
散布量は両側メータリングプレート①の0-90の目盛りに合わせてノブ②をセットします。

また、ノブ自体にも0-5の微調整用の目盛りがついています。



1. ノブ上部のロックノブを緩めます。
2. ノブの目盛りとメータリングプレートの目盛りを組み合わせ、規定値にセットします。
3. ロックノブで調整を固定します。

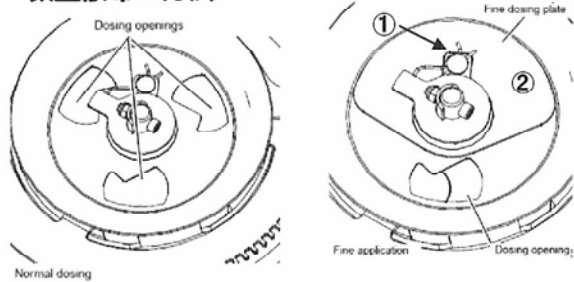
散布パターン



散布量+散布幅をセットすると共に、肥料への排出タイミングを調整してください。

1. 調整レバーを③手前に引き、アルファベットF-Z(散布パターン)の目盛りに合わせます。
2. 調整レバーを戻し、確実にロックされたことを確認してください。

微量散布の方法



本機で微量散布を行う場合は微量散布調整キット(オプション)が必要です。微量散布設定とは下記条件時にメータリングプレートの開口部2つを塞ぐことで正確な散布量(kg/min)を得るためのものです。

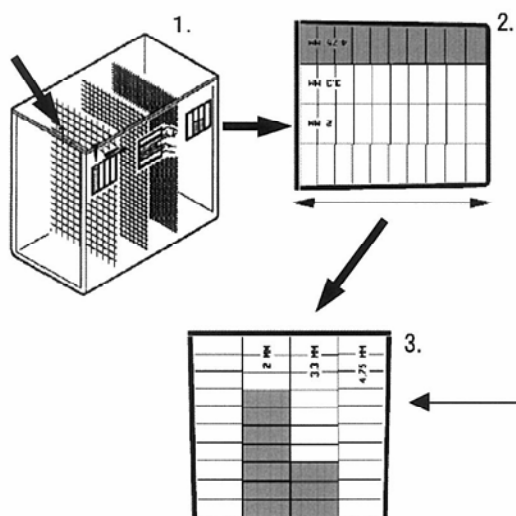
- 種子またはスラグペレットの散布
- 少量散布(50kg/min 以下)
- N, Mg, SO₃の含有量が多い肥料

微量散布調整キットはホッパーに肥料を投入する前に取り付けてください。

- ベーターピン①を外し、カバープレート②を取り付けます。
- ベーターピンを戻します。

注意:微量散布は1つの開口部のみで行うので散布量の設定は通常より3倍高くする必要があります。

肥料チェッカーの使用方法



散布表に該当する肥料がない場合、肥料チェッカーで類似の肥料を探します。

1. チェッカーの蓋を開け 4.75mm のマス (矢印) に肥料を入れます。
2. 蓋を閉じ、4.75mm のマスが上になるようにチェッカーを横にして振ります。
3. 各マスに残った肥料の割合が最も近い肥料のデータを散布表から選び参照します。

肥料の粒径

<2mm 2mm-3.3mm 3.3mm-4.75mm >4.75mm
0% — 70% — 30% — 0%

散布表の見方 (例)

肥料タイプ NPK 比重:0.98

肥料チェッカー割合:0%-70%-30%-0%

散布量:358kg/ha 散布幅:12m

作業速度:8km/時

目盛りの決定

1. 散布表で近似する肥料ページを選択

2. (散布パターン) 目盛り: Q

3. (散布量) 目盛り: 36+0

(製品名)

(散布幅) **12 mtr**

Product

Extra Grass (NPK 27-5-5)

Manufacturer

Yara

(肥料メーカー)

Granule size

00-70-30-00

(肥料チェッカー割合)

Density

0,98 kg/ltr

(比重)

Shape

Granular

(肥料形状)

(ペーンサイズ)

185

135

Field settings

Spreader inclination (チルト)

0°

PTO revolutions (PTO 回転数)

540

Disc revolutions (ディスク回転数)

731

Fine application kit (微量散布キット)

No

0°

(作業速度)

Application rate [kg/ha]

kg/mln

kg/mln

6 km/h

8 km/h

9 km/h

10 km/h

11 km/h

12 km/h

14 km/h

18+3	10	N	23	193	145	129	116	105	97	83
24+0	14	N	30	250	188	167	150	136	125	107
24+3	17	N	37	307	230	205	184	167	153	131
30+0	20	N	44	364	273	242	218	198	182	156
30+3	24	N	50	420	315	280	252	229	210	180
36+0	27	Q	57	477	358	318	286	260	238	204
36+3	32	Q	67	556	417	371	334	303	278	238
42+0	36	Q	76	635	476	423	381	346	317	272

注意: 作業前に、必ずキャリブレーションテストを実施してください。

微量散布のセッティング 1

9 mtr

Product
Manufacturer
Granule size
Density
Shape

Metarex

Metarex
00-100-00-00
0.76 kg/ltr
Slug pellets

235
185

Field settings

Spreader inclination
PTO revolutions
Disc revolutions
Fine application kit

0°

540

131

Yes

Application rate [kg/ha]

kg/min

kg/min

6 km/h

8 km/h

9 km/h

10 km/h

11 km/h

12 km/h

14 km/h

	kg/min		kg/min	6 km/h	8 km/h	9 km/h	10 km/h	11 km/h	12 km/h	14 km/h
0+3	0.15	J	0.35	3.9	2.9	2.6	2.3	2.1	1.9	1.7
0+4	0.18	J	0.40	4.4	3.3	3.0	2.7	2.4	2.2	1.9
0+5	0.24	J	0.55	6.1	4.6	4.0	3.6	3.3	3.0	2.6
6+0	0.30	J	0.60	7.7	5.8	5.1	4.6	4.2	3.9	3.3
0+1	0.07	J	0.24	9.3	7.0	6.2	5.6	5.1	4.7	4.0
6+2	0.43	J	0.99	11.0	8.3	7.3	6.6	6.0	5.5	4.7
6+3	0.53	J	1.20	13.3	10.0	8.9	8.0	7.3	6.7	5.7
6+4	0.60	J	1.41	15.7	11.8	10.4	9.4	8.5	7.8	6.6

微量散布の散布表

散布表中部の[Fine application kit]欄に“**Yes**”が表示されているのが「微量散布」散布表です。

(例)

肥料タイプ:ペレット 比重:0.76
 肥料チェッカー割合:0%-100%-0%-0%
 散布量:5.8kg/ha 散布幅:9m
 作業速度:8km/時

通常の散布表と同様に、散布幅(9m)⇒
 作業速度(8km/h)⇒散布量(5.8kg/ha)
 ⇒散布パターン目盛り(J)⇒散布量目
 盛り(6+0)が求められます。

微量散布のセッティング 2

12 mtr

Product **NPK 5-24-24 Autumn Corn**

Manufacturer **Yara**

Granule size **05-65-30-00**

Density **1,04 kg/ltr**

Shape **Blond**

165

135

Field settings

Spreader inclination

8°

PTO revolutions

540

Disc revolutions

131

Fine application kit

No

Application rate [kg/ha]

kg/mtr

kg/min

6 km/h

8 km/h

9 km/h

10 km/h

11 km/h

12 km/h

14 km/h

18+3	8	M	18	150	112	100	90	82	75	64
24+0	11	M	24	198	149	133	119	108	99	85
24+3	14	M	30	248	186	165	149	135	124	106
30+0	17	M	38	297	222	198	178	162	148	127
30+3	20	M	41	346	259	230	207	188	173	148
36+0	23	N	47	395	296	253	237	215	197	169
36+3	27	N	57	472	354	314	283	257	236	202
42+0	31	N	65	549	412	366	329	299	274	235

通常の散布表で換算

散布表中部の[Fine application kit]欄に
 “**No**”が表示されている場合は通常の散
 布表を使用します。

(例)

肥料タイプ:NPK 比重:1.04
 肥料チェッカー割合:5%-65%-30%-0%
 散布量:100kg/ha=18kg/min※
 散布幅:12m
 作業速度:9km/時

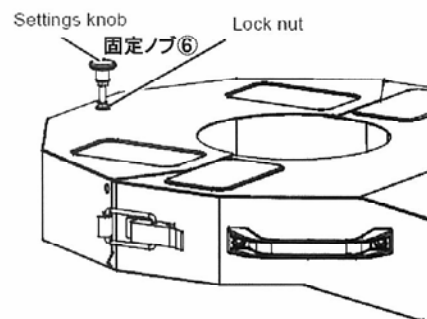
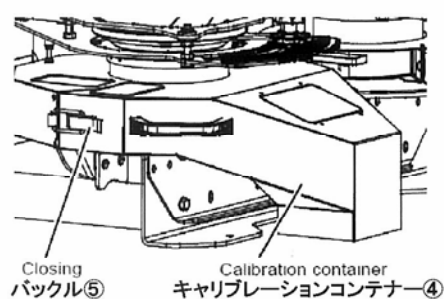
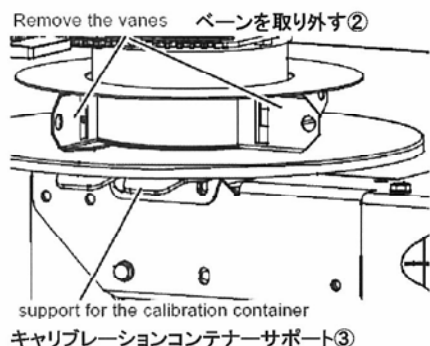
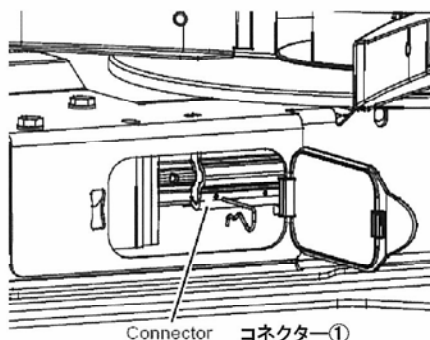
1. 散布パターン目盛りは通常通り: **M**
2. ※散布量はシャッター開口部を2つ塞いでいる為、毎分散布量(18)を3倍し、 $18 \times 3 = 54$ に最も近い(57)欄を参考に、散布量目盛りを(36+3)に合わせます。

注意:本製品での微量散布作業にはオプションの微量散布キットが必要です。

注意:作業前には必ず「キャリブレーションテスト」を実施してください。

注意:肥料は生産ロットにより、同じ種類の肥料であっても、粒形などが異なる場合があります。定期的に「公式テストキット」による、散布テストを実施することをお勧めします。詳細は、お買い上げの弊社特約店にお問いあわせください。

キャリブレーションテスト



付属の散布表は良質の肥料と最新の設備を用いて構成されたものです。実作業においては本機がこの散布表で割り出した条件とは異なっている場合があります。散布作業前にそれらの差を補正する必要があります。

危険！：肥料をホッパーに投入する前に肥料の注意書きをよく読んでください。必要に応じて防護服を着用してください。

キャリブレーションテストは左側のディスクで行います。

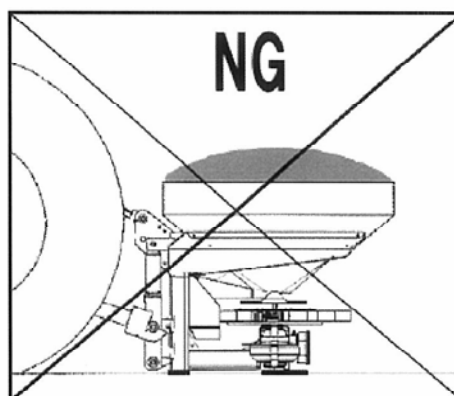
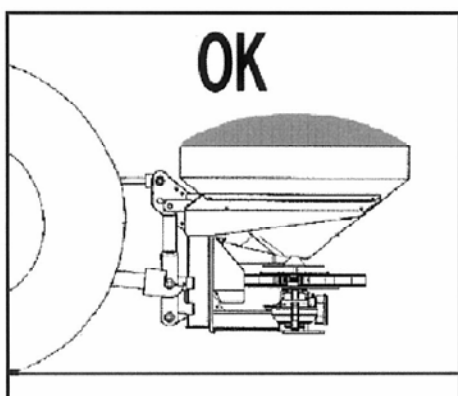
1. ベータピンを外し、左右のディスクを繋いでいるコネクター①をスライドさせ連結を解除します。
2. 右側ディスクの散布量ノブを0-0に合わせます。
3. 左側ディスクの全てのベーン(羽根)を取り外します②。
4. ディスク下のサポート③にキャリブレーションコンテナ④を取り付け、ディスクに接触しないことを確認の上、バックル⑤と固定ノブ⑥でロックします。
5. 散布表から肥料の種類と作業幅に合った表を参照します。
6. 散布表より作業速度、散布量(kg/ha)を選びます。
7. 選択した数値(目盛り)を参考に散布量ノブを設定します。
8. 肥料をホッパーの半分位まで投入してください。
9. トラクターのエンジンを始動し、PTO スイッチを入れ、540rpm まで回転数を上げ、1分間ディスクのシャッター(開口部)を全開にしてください。
10. 1分経過と同時にシャッターを閉じ、コンテナ内の肥料の実際重量を計ります。
11. コンテナ内の肥料重量に2を掛けることで実際の散布量(kg/min)を求めることができます。

- 散布量が多い時、テスト時間は30秒でも構いません。その場合、実際重量に4を掛けます。
- もし、当初設定の毎分散布量⇔実際重量と散布表で得られる毎分散布量に差が生じた場合、その差に応じて散布量目盛りを増減し、再度テストを行ってください。

注意：ホッパーに新たに投入された肥料は排出されにくくなります。正確なテスト結果を得るために、5秒間程肥料の仮排出を行うことをお勧めします。

肥料の投入

- 肥料の投入は、本機をトラクターの三点リンクで地面から浮かせた状態で行ってください。
- 肥料投入前に左右ディスクのシャッター(開口部)が完全に閉じているか確認してください。
- 肥料を搭載したまま移動すると、肥料が飛散する恐れがあります。肥料の投入は、圃場内で行ってください。
- 散布作業の直前に肥料をホッパーに投入してください。
- 左右ディスクにムラなく肥料が落下するように、ホッパー左右均等に肥料を投入してください。



注意:ホッパーに肥料が入った状態で、本機を保管しないでください。

注意:ホッパーに肥料が入った状態で、ディスクを回さないでください。

注意:運送時は、必ず本機のフレーム部分をタイダウン等で固定してください。

ワイドスプレッダーでの作業

- 本機を適切な高さにし(ペーンの高さが散布面から 75cm)、前後および左右の水平度を調整してください。
- トラクターを始動し、PTO のスイッチを入れ、徐々に 540rpm まで回転数を上げてください。
- トラクターを発進させ、シャッターを開けてください。PTO 回転数を一定に保って作業を行ってください。

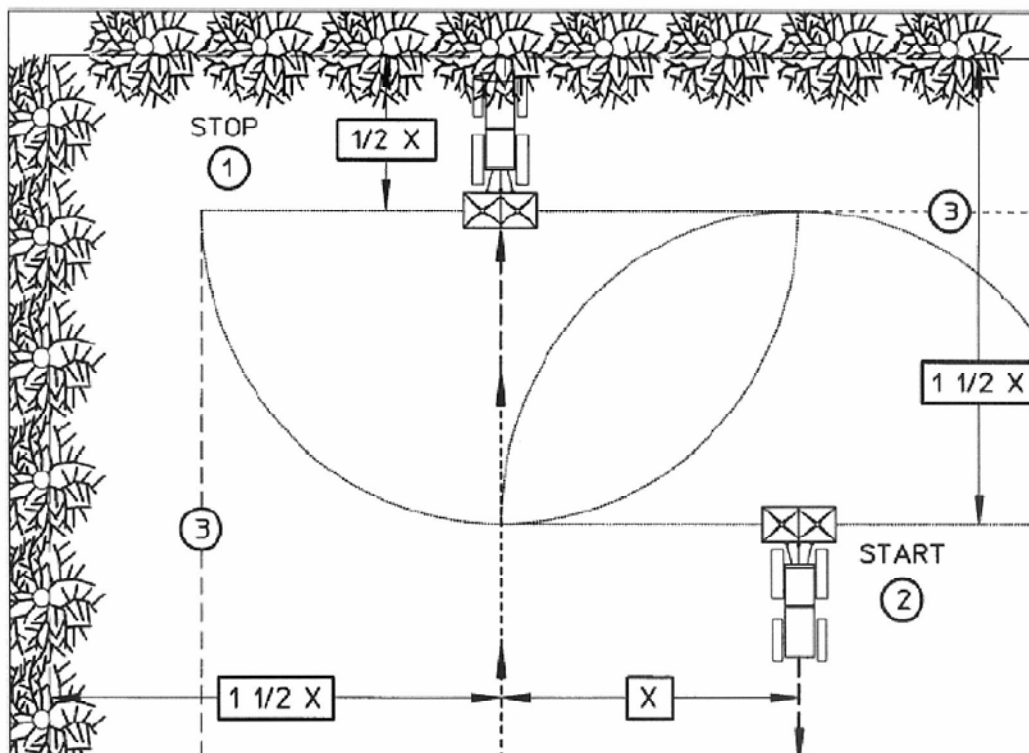
注意:肥料の破碎を防ぐために、シャッターを閉めた状態で PTO を回し続けしないでください。

散布作業中に散布量を調整したい場合、作業速度で調整してください。

- 速度を上げる＝散布量が減る
- 速度を下げる＝散布量が増える

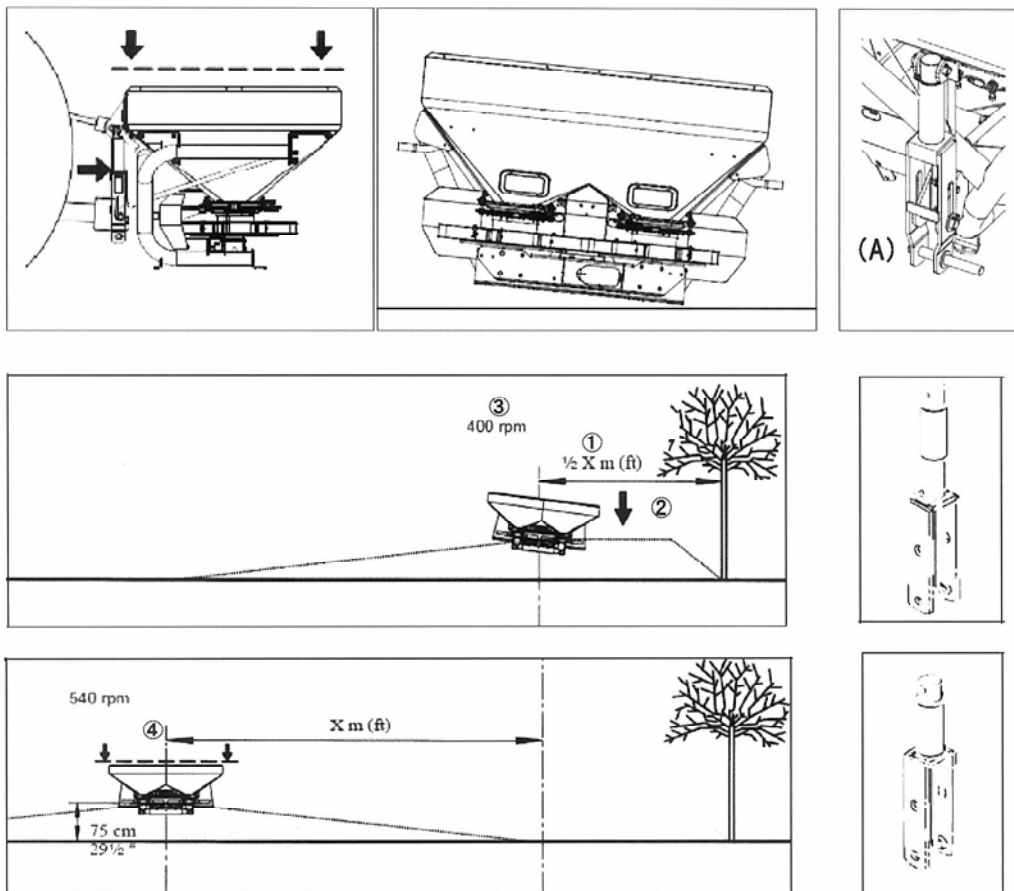
注意:PTO 回転数を一定に保つために、作業速度の変更はギアチェンジでのみ行ってください。

注意:圃場の土壌条件が変わってくるとタイヤのスリップなどによって作業速度(＝散布量)に影響します。



圃場端での散布作業

- 圃場の端から作業幅×1/2 の位置①で作業機のシャッターを閉じ、散布を停止します。
- PTOは切らずに、ディスクは回転させたままにしておいてください。
- トラクターを旋回させ、圃場の端から作業幅×1½の位置②まで前進し、そこでシャッターを開けて散布を開始します。
- 散布停止前または散布開始時にチルトシリンダー(オプション)で本機を傾け、圃場端から作業幅×1/2の位置③を走行し、境界線散布を行います。



チルトシリンダー(オプション)を使用時の境界線散布

チルトシリンダー(A)を取り付けて本機を圃場側に7° 傾けると片側の散布幅だけ短くすることができます。チルトシリンダーの操作はトラクター運転席から簡単に行えます。その際、散布量の調整は必要ありません。

18m間隔で作業機のトラムラインがある圃場の場合は以下の手順に従って作業してください。

- 最初に走行するトラムラインは圃場の端から9mの位置①にあります。
- 本機を7° 傾け②散布します。
- 次に走行するトラムラインは最初のトラムラインから18mの位置④で、本機を水平にし、PTO回転数を540rpmに設定してから散布作業を再開してください。最初のトラムラインで得た散布パターンと対照的な散布を行えます。

注意: 肥料が圃場の境界線を越えて人や物に当たらないようにPTO回転数を調整して作業してください。最初は400rpm位③で本機を最大傾斜させて作業することをお勧めします。圃場の端まで肥料を飛ばせるようにするには、本機の傾斜を緩めるに従い(水平に近づけて)、PTO回転数も徐々に上げてください。

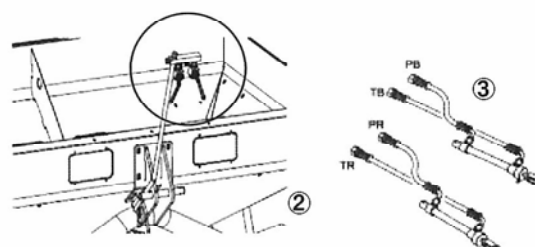
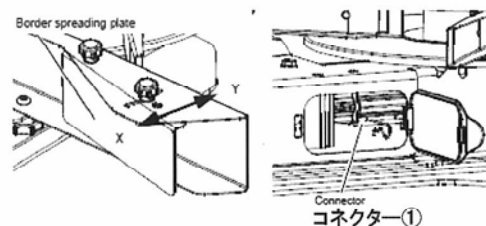
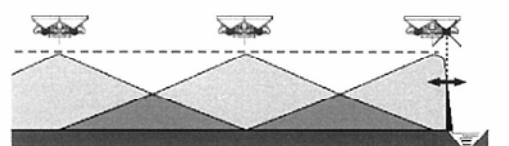
注意: 追肥作業時、左側ディスクの肥料排出速度は相対的に速くなります。作物の種類によっては、高速排出された肥料による被害を防ぐために、ボーダープレート(オプション)を使用して追肥するようにしてください。

ボーダープレート(オプション)

圃場の際に沿って片側散布を行う場合、ボーダープレートを使用します。
プレートは X⇔Y の設定ができます。正確なオーバーラップ散布を行う時は X に設定し、用水路など、畑外に肥料の飛散を防ぐ時は、Y に設定します。

1. 右側ディスクの散布量ノブを 0-0 に合わせ、右側ディスクシャフトのコネクター①※をスライドさせ、左右ディスクの連結を解除します。
2. ボーダープレートを装着します、その際、ベーンがプレートに接触していないか確認します。
3. 散布量・散布幅は通常の設定を行います。

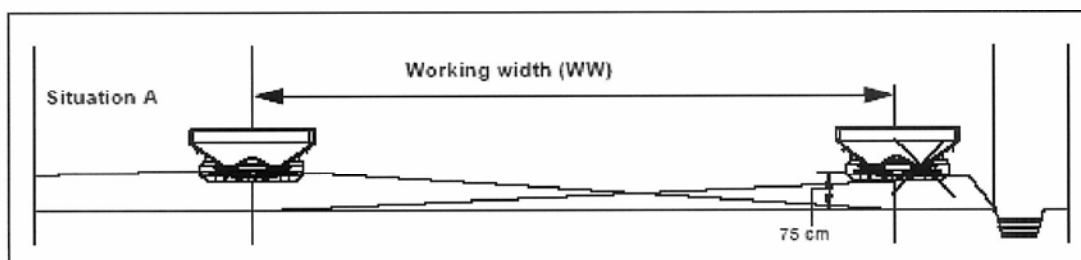
※オプションのリモコンバルブ②又はホースキット③を併用することで、コネクターで左右ディスクの連結を解除することなく、全面⇔片側散布の切替えが可能になります。



以下、下図を参考に作業を行います。

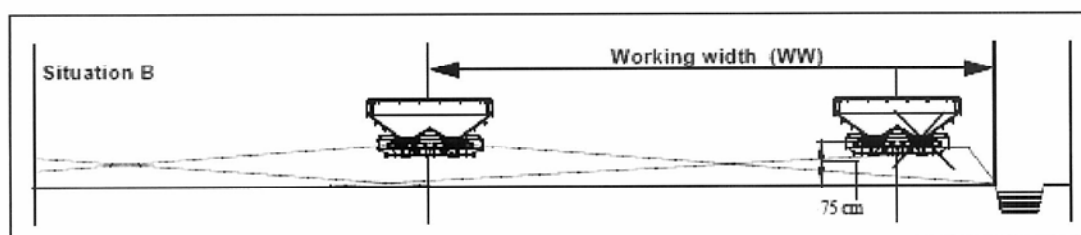
A:トラムラインを走行しての散布

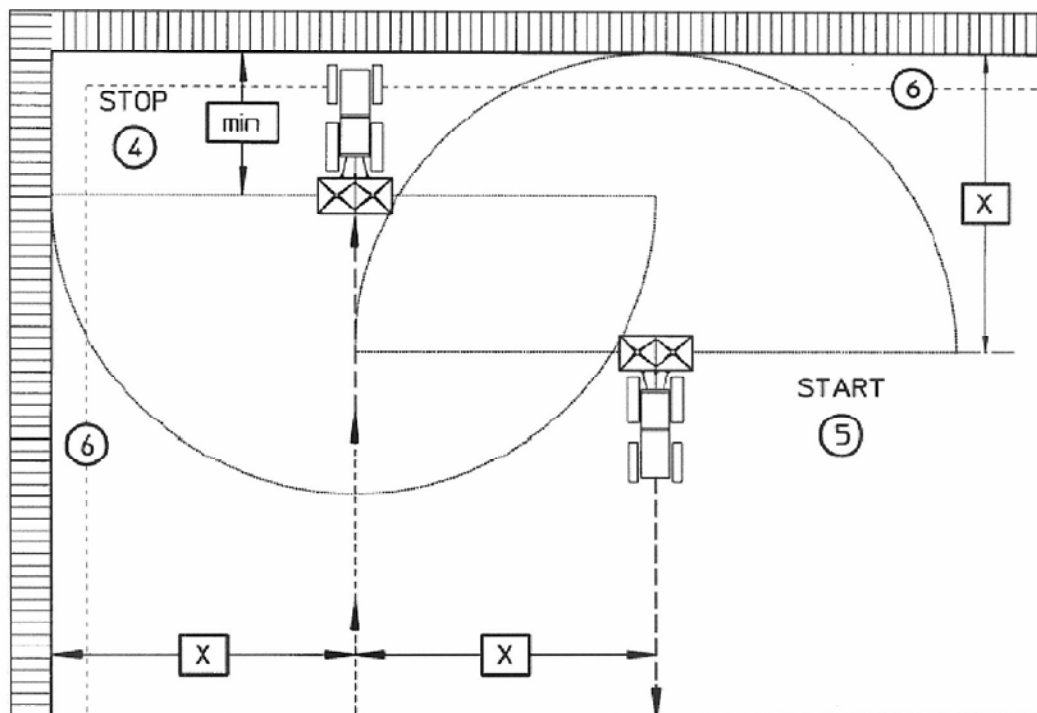
- 畑端約2mの位置をプレート装着+PT0400rpmで散布
- プレートを外し、最初の畦を 540rpm で散布
- 左右ディスクを連結させ、通常通りの散布作業



B:通常の畑端散布

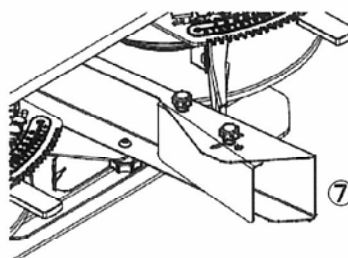
- 畑端約2mの位置をプレート装着+PT0400rpmで散布
- プレートを外し、左右ディスクを連結させ、通常通りの散布作業

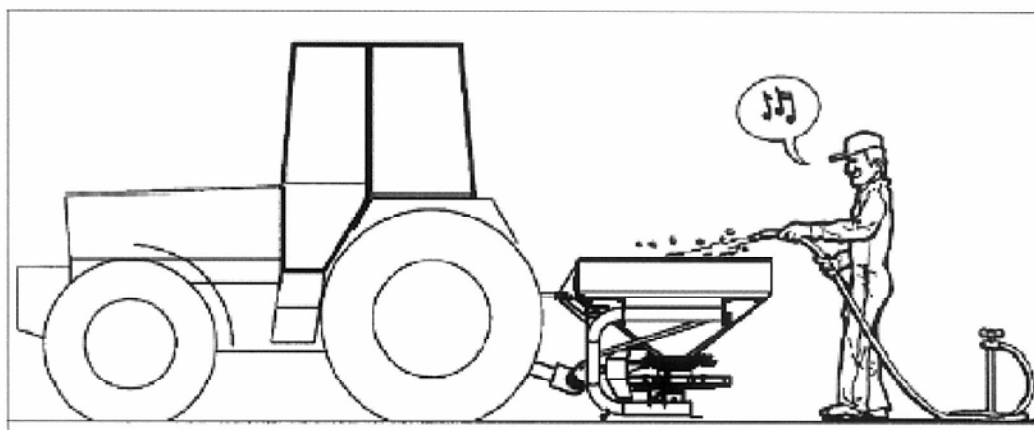




ボーダープレート(オプション)を使用しての作業

- 圃場の端④にできる限り近づいてから、作業機のシャッターを閉じて散布を停止してください。
- PTO は切らずに、ディスクは回転させたままにしてください。
- トラクターを旋回させ、圃場の端から作業幅と同じだけ前進した位置⑤でシャッターを開けます。
- 散布停止前または散布開始前に片方のディスクを閉じボーダープレート⑦を装着して境界線⑥の散布します。





機械の清掃および点検

日常の清掃

毎作業後はホッパーを空にしてください。少量の肥料がホッパー内に残っている場合は、キャリブレーションコンテナを使用して残留肥料を排出してください。次に、ホッパー内をきれいな水で洗浄してください。高圧洗浄器を使用する場合は、ベアリング、シール、ギアボックスなどに大量の水を掛けないように注意してください。機械が完全に乾いてから磨耗して地金が露出している部分などに防錆油を塗布してください。ギアボックスのベアリングにもオイルを塗布してください。

注意：高圧洗浄器を使用する場合、シールリング部は 3bar 以上の水圧で洗わないでください。

危険！：本機を点検または修理をする前は、トラクターのエンジンを切ってください。

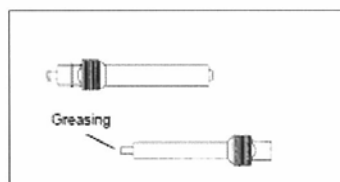
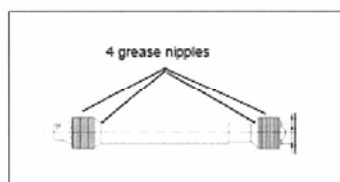
危険！：溶接をする時は機械を洗浄し、完全に乾いてから行ってください。肥料がホッパー内に残っていると爆発する恐れがあります。

PTO シャフト

グリスアップを 8 時間毎に実施してください。

- 両端スパイダー部
- チューブスライド部

スリックラッチのクラッチ板の磨耗も定期的に点検してください。

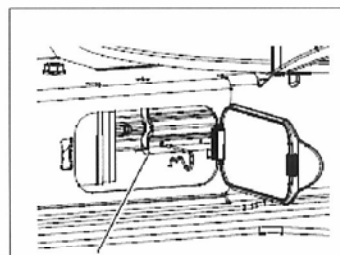


左右ディスク駆動シャフトのコネクター

両ディスク駆動のコネクターへのグリスアップは：

- 作業機始動後 10 時間
- 100 作業時間毎

実施してください。



ギアボックス

中央の入力ギアボックス、両ディスク下のギアボックスには、グリスが充填されています。何らかの理由でギアボックスの分解を行った場合は、新しいグリスに交換してください。

指定グリス： EP00/000

グリス量：

- センターギアボックス 0.18+/-0.02 ℓ
- ディスクギアボックス 0.20+/-0.02 ℓ×2

危険！：作業機の下でギア交換などの作業をする場合は、作業機が完全に固定されているか確認してください。

油圧機器

油圧ホース/シリンダー/バルブなどは定期的に点検してください。

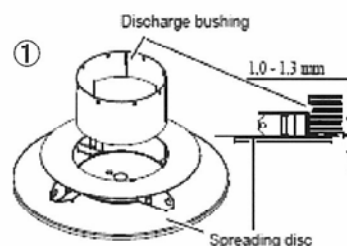
特に、シーズン前/終了後はオイル漏れや損傷がないか確認してください。

油圧ホースは、損傷がない場合でも5年毎の交換をお勧めします。

危険！：油圧機器には高圧がかかっています。作業中やメンテナンスの際に、オイル漏れを素手で触れないでください。重大な障害事故をまねく恐れがあります。

各部ボルト/ナットの締め付け点検

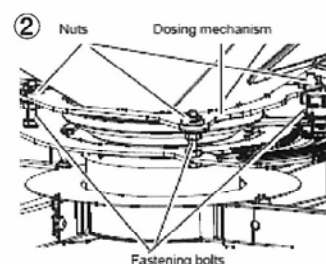
始動後10時間程度、その後、50時間毎に、各部ボルト/ナットに緩みなどが点検してください。必要に応じて締め付けを実施してください。



散布ディスク周辺の点検

散布ディスクとディスチャージカップが干渉していないことを確認してください①。

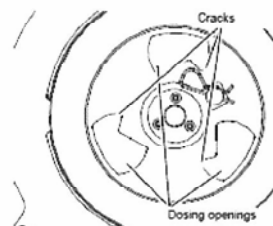
クリアランスは1.0 mm～1.3 mmです。シックネスゲージを用いて測定してください。



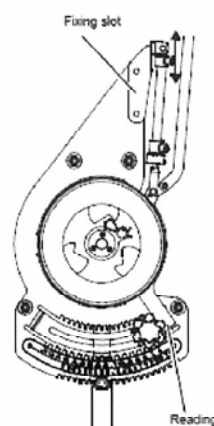
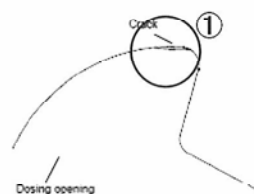
調整はシャッター調整部の樹脂カバーを外し、内側にある調整ボルトで行います②。ロックナットを緩め調整ボルトを締め(緩め)、適正なクリアランスに調整した後、再度ロックナットを締めて固定してください。

メータリングプレートの開度点検

- トラクター油圧を用いてメータリングプレートを閉じます
- メータリングプレートは僅かに開いた状態が正常です①。メータリングプレートが完全に閉じていたり、隙間が大きい場合は、調整する必要があります。
- 散布量ノブを0-0に合わせます。
- シャッターの油圧シリンダー取り付けブラケットの固定ボルトを緩め、正規な状態に合わせ、固定します。
- 同時に左右メータリングプレートの開度差も確認してください。
- トラクターのエンジンを始動させ、油圧を作動し、何回かシャッターの開閉を行い、位置が正しいか再度確認します。
- 調整ノブを36-0に合わせ、トラクター油圧でメータリングプレートを開けます。左右の差が0.5mm以上あってはいけません。

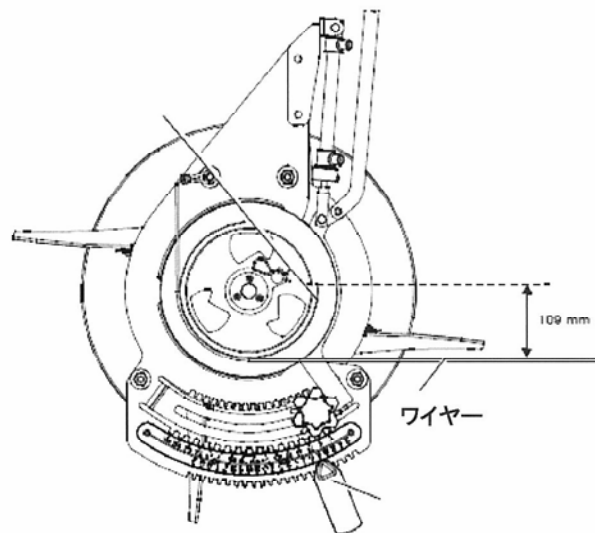


正常: 僅かに隙間有り



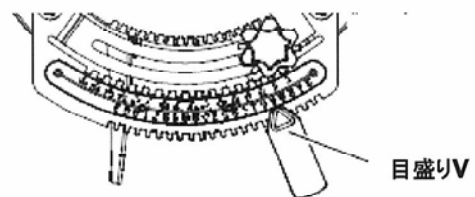
注意:メータリングプレートの調整は、トラクターのエンジンを止め、キーを抜き、駐車ブレーキをかけ、実施してください

肥料排出タイミング調整機能の点検



両側のディスチャージカップ位置を点検し調整します。必要に応じて以下を実施します。

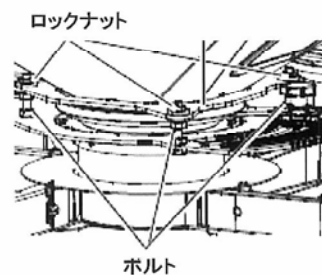
- 肥料散布パターン調整レバーをVの目盛りに合わせます。
- ディスチャージカップの周りにワイヤーを巻きつけます。(上図)
- ワイヤーとディスチャージカップ開口部の間隔は 109 mm が正常です。



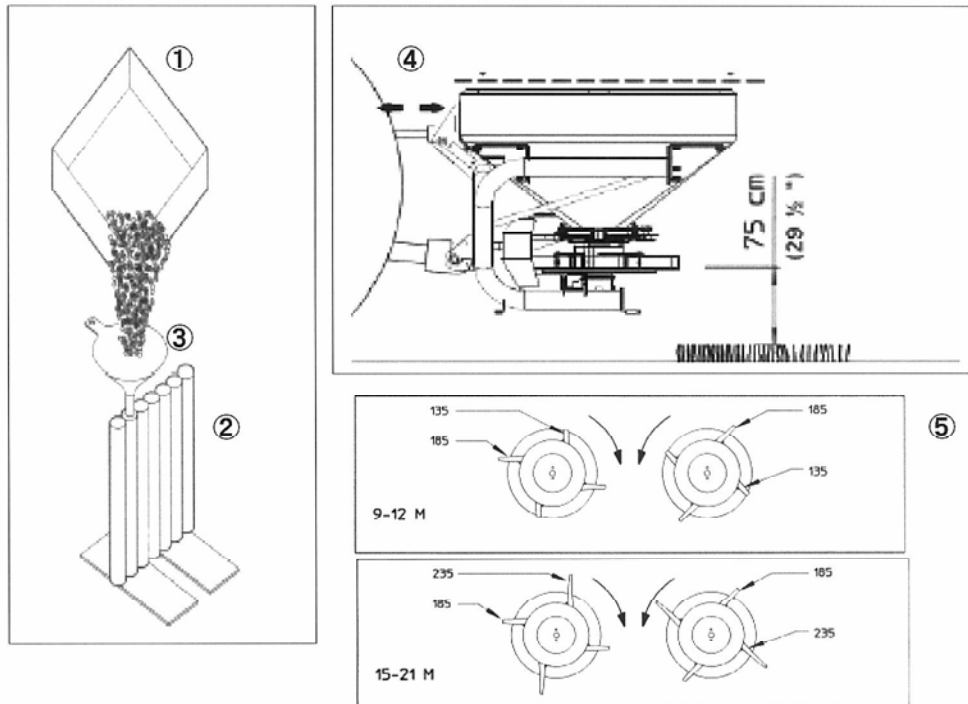
開口部の間隔が 109 mm 以上/以下の場合

- ロックナット・ボルトを 4 本緩め、メータリングプレート回転させ、正規位置に合わせます。
- 調整後、ロックナットで完全に固定してください。

注意:この調整は左右同じように実施してください。



参考：公式キットを使用しての肥料散布テスト



コンテナテスト

肥料の状態はバッチ間で差がある場合があります。定期的 to 実際の機械で散布パターンを確認することをお勧めします。

注意：肥料チェッカーを使用して肥料の比重が分かっている場合は散布表から正しいセッティングを得ることができます。コンテナテストを実施する場合もこのセッティングから開始してください。

コンテナテストキット

- テスト用コンテナ①×7 枚
- グリッド×7 個
- メジャーリングチューブ②×7 個
- ファンネル③×1 個
- 説明書

注意：気象条件は散布パターンに大きな影響を及ぼします。コンテナテストも同じ影響を受けることを念頭に入れておいてください。

コンテナテスト条件

- トラクターの PTO 回転数を確認してください。
- ペーンの組み合わせ⑤を確認してください。
- スプレッダーがトラクターに正しく接続されているか④確認してください。
- 風速が 3m/秒以下であることを確認してください。
- 雨または湿度が高いときはコンテナテストを実施しないでください。肥料が固まってしまう。

松山株式会社

本社：〒386-0497 長野県上田市塩川5-1-55 ☎(0268)42-7500 FAX(0268)42-7556
物流センター：〒386-0497 長野県上田市塩川2-9-49 ☎(0268)36-4111 FAX(0268)36-3335
北海道営業所：〒068-0111 北海道岩見沢市栗沢町由良1-9-4-5 ☎(0126)45-4000 FAX(0126)45-4516
旭川出張所：〒079-8431 北海道旭川市永山町8丁目3-2 ☎(0166)46-2505 FAX(0166)46-2501
帯広出張所：〒082-0004 北海道河西郡芽室町東芽室北1線1-8番10 ☎(0155)62-5370 FAX(0155)62-5373